

【参考図書】

『日本商船隊の崩壊』妹尾正彦著	(財)損害保険事業研究所	昭和24年10月10日発行
『日本商船隊戦時遭難史』	(財)海上労働協会	昭和37年7月20日発行
『戦時造船史』小野塚一郎著	(財)日本海事振興会	昭和37年3月24日発行
『太平洋戦争沈没艦船遺体調査大鑑』池田貞枝著	戦没遺体収揚委員会	昭和52年7月10日発行
『船舶砲兵―血で濡られた戦時輸送船史』駒宮真七郎著	株式会社協同社	1977年11月1日発行
『社史―合併より15年』	山下新日本汽船株式会社	昭和55年6月30日発行
『続・船舶砲兵―救いなき戦時輸送船の恋録』駒宮真七郎著	株式会社協同社	1981年10月20日発行
『国策 戦時徴用船の最後』	(財)日本海事広報協会	昭和59年8月15日発行
『風濤の月日―商船三井の百年』	大阪商船三井船舶株式会社	昭和59年11月1日発行
『七つの海で一世紀 (日本郵船創業100周年記念 船舶写真集)』	日本郵船株式会社	昭和60年10月1日発行
『海なお深く (太平洋戦争・船員の体験手記)』	(財)全日本海員福祉センター	1986年8月1日発行
『戦時輸送船団史』駒宮真七郎著	株式会社協同社	昭和62年10月8日発行
『日本郵船株式会社百年史』	日本郵船株式会社	昭和63年10月発行
『日本郵船百年史資料』	日本郵船株式会社	昭和63年10月発行
『戦時輸送船団史Ⅱ』駒宮真七郎著	駒宮真七郎	平成7年3月発行
『陸軍船舶戦争―船舶は、今も昔も島国日本の命綱―』松原茂生・遠藤昭 共著	戦誌刊行会	平成8年5月1日発行
『日本船主協会 50年史』	(社)日本船主協会	平成9年12月25日発行
『阿波丸撃沈―太平洋戦争と日米関係』ロジャー・ディンクマン著 川村孝治訳	株式会社山堂書店	平成12年6月28日発行
『商船が語る太平洋戦争―商船三井戦時船史』	野間 恒編著	平成14年5月1日発行
『戦時輸送船ビジュアルガイド』	株式会社大日本絵画	2009年5月29日発行
『神戸大学海事科学研究科 海事博物館研究年報 No.37 2009』	神戸大学海事科学研究科 海事博物館	平成22年3月31日発行
『神戸大学海事科学研究科 海事博物館企画展図録』	神戸大学海事科学研究科 海事博物館	平成22年1月31日発行

—企画展—

海に消えた徴用船たち

2019年 8月14日(土)～10月3日(日)

フェルケール博物館

(財団法人 清水湾博物館)

<http://www.suzuyokan.jp/suzuyo/ferkelr>

〒424-0943

静岡県清水区港町2-8-11 TEL 054-352-8060

- 主 催 財団法人 清水湾博物館
- 後 援 静岡県教育委員会／静岡市教育委員会／NHK静岡放送局／朝日新聞静岡支局／毎日新聞静岡支局／読売新聞静岡支局／産経新聞静岡支局／静岡新聞社静岡支局／静岡新聞社・静岡放送／中日新聞東海本社
- 協 賛 鈴奈グループ



日本財団 財団事業

この企画展はポータルサイトの寄付金による日本財団の助成金を受けて実施します。

海に消えた

徴用船たち





ごあいさつ

徴用船とは戦時体制下で国家の名のもとに強制的に集められ、戦争のために軍艦（航空母艦・巡洋艦など）や輸送船に改造された商船のことです。第2次世界大戦で開戦時に軍が徴用した船舶2,736隻の内2,568隻が破壊、撃沈され、約60,331人の船員たちが戦死したといわれています。

徴用船はもともと商船として貨物や旅客を扱い、平和と豊かさの象徴として世界の海に活躍していました。しかし、戦争が始まると同時に船舶が不足するようになり、商船を徴用して軍力強化のため、軍艦や輸送船に改造して戦時に当たさせたのです。昭和12年（1937）7月に日華事変が勃発しヨーロッパでも戦火が広がっていきな、日本政府は徐々に戦時体制へ移行していきました。昭和16年（1941）12月太平洋戦争が勃発すると、昭和17年（1942）3月に「戦時海運管理令」が公布され、全国の船舶が国家使用となり、更に同年4月に設立された「船舶運営会」の下に一元的に運行管理されることとなりました。各船舶会社はすべての海外航路を閉鎖するだけでなく、船舶も船員も国家に徴用されたのです。その結果、世界に誇った豪華客船や高速優秀貨物船はその殆どを失い、わずかに海軍の病院船であった氷川丸などが残っただけでした。昭和20年（1945）に戦争は終結しましたが、船舶会社にはなお悲劇が待っていました。ただでさえ残された船舶が少ない上に、連合軍の占領下において活動が制限され続けたのです。昭和24年（1949）4月に漸く定期用船制度に切りかえられ、翌年4月に大型船が民営還元されたものの、光明が見え始めたのは昭和30年代に入ってからのことでした。

戦争は軍人や軍属だけが当事者ではありません。戦争に関わった人々は総て当事者であるのです。しかし、積極的に協力した者と、仕方なくしぶしぶ協力した者や、戦争に反対しながら協力させられた者など、いろいろの立場の人々が居たことは現在知られています。

今回の展覧会では、企業努力で営々と築いてきた会社の財産である優秀な船舶や船員たちを、惜しげもなく戦線に送り出さなければならなかった船舶会社の姿を、失われた徴用船の状況から振り返ってみたいと思います。

2010年8月14日

フェルケール博物館

はじめに

日米開戦当時、我国が保有した船腹は630万トン（世界第3位）で、これに朝鮮・中国・関東州に配備されている置籍船を加えると642万トンとなり、日本国としてはおよそ590万トンの船腹があれば、このたびの戦争に勝算ありと考えていた。すなわち陸軍徴用船110万トン、海軍徴用船180万トン、民需用300万トンが必要で、船舶運営会がこの民需用船舶の運営にあたった。

船は総て国家使用となり、国家は1枚の令状で有無を言わず船を徴用し、その使用料も政府が一方的に決定した。船主は単なる船舶所有者にすぎず、ただ使用料のみの収入で、例えば家主と同じ存在になってしまった。船員も総て政府に徴用され、政府の意のままに配置・配船されたのである。

しかし、果たしてその徴用がうまく機能したのだろうか。開戦当初の6ヶ月間は陸軍が上陸部隊を大量に南方へ輸送する必要があり、これが終れば民需用に回せば、何とかやりくり出来ると予測していた。更に昭和18年度には65万トン、19年度には85万トンの新造船が出来る予定でそこから民需用に回せるという計画であった。

開戦時の徴用船舶区分表（100吨以上の汽船）

	陸軍（A船）		海軍（B船）		民間（C船）	
	隻数	総吨数	隻数	総吨数	隻数	総吨数
貨物船	438	2,136,764	459	1,410,782	1,733	2,351,354
油送船	10	13,480	52	322,890	44	148,730
計	総隻数 2,736隻		総吨数 6,384,000吨			

〔太平洋戦争北洋船舶運作調査大鑑〕より

しかし、これは単なる卓上の計算であった。初期のころ、つまり比較的順調に作戦が進んでいるころから、すでに船は不足していて、ガダルカナル島敗退で船舶の被害は激増し、逆に不足している民需用船舶を軍が奪っていく状態で、結局民需用として300万トン必要とされていたところが、戦争中は一度も目標を満たすことはなかった。民需用の船舶が不足するということはいったいどういうことだろうか。太平洋戦争と呼ばれるこの戦いは、太平洋に点在する7,000余島の争奪戦を意味し、攻防と兵站（へいたん＝前線にいる作戦軍のために後方において、車両・軍需品の輸送・補給・修理や、後方支援ルートの確保などの任務）が、戦闘遂行の鍵となっている。しかし、日本軍はソ連を仮装敵国として

太平洋戦争中の喪失船艘量

年 度	戦争海難		普通海難		合 計	
	隻数	総吨数	隻数	総吨数	隻数	総吨数
昭和16年	9	48,574	2	6,585	11	55,159
昭和17年	204	884,928	21	92,990	225	977,927
昭和18年	426	1,668,086	37	99,538	463	1,767,624
昭和19年	1,009	3,694,026	69	129,459	1,078	3,823,485
昭和20年	746	1,722,508	45	86,686	791	1,809,194
合 計	2,394	8,018,122	174	415,267	2,568	8,433,389

〔日本海軍戦時特種船隻史〕より

戦略をたてている陸軍と、日本海海戦のように艦隊同士の決戦を目的とする海軍とでは一致協力した作戦は立てられず、めいめい思い思いの作戦で戦っていくことになったのである。

第1期 ハワイ奇襲と南方作戦 (昭和16年12月～17年5月)

太平洋戦争の開戦は、昭和16年12月8日のハワイ奇襲（真珠湾攻撃）で華々しい戦果を上げたが、むしろ実質的に重要だったのは南方への作戦行動であった。

南方地域とは石油などの鉱物資源を保有しているイギリス領ボルネオやオランダ領インドシナなどのことで、その輸送ルートの確保が重要で、そのため途中に立ちはだかるフィリピンやグアム島の米軍基地を制圧することが何より重要であった。

ハワイ奇襲と同じ日の8日、シンガポールのイギリス軍基地を攻撃のためマレー半島東岸に上陸し、22日にはルソン島北部に上陸してアメリカ軍基地のあるマニラを攻略したのである（リングエン湾上陸）。

上陸作戦を執行するには、大部隊を船団で輸送しなければならない。このためすでに11月より密かに作戦が進められ、とりあえず上海・広東方面に終結した後、一気に海南島三亞、次いでシャム湾フコク島を最終の合流地点としたのである。

この上陸作戦に投入されたのは第25軍（山下泰文中将）の先遣兵で、輸送船17隻、病院船1隻の大船団であったので、途中イギリス商船に発見され、各国は日本の開戦が間近いことを確信したようだ。

戦争海難による遭難種類別の喪失船隻数

年別 種類	昭和16年		昭和17年		昭和18年		昭和19年		昭和20年		合計	
	隻数	総屯数	隻数	総屯数	隻数	総屯数	隻数	総屯数	隻数	総屯数	隻数	総屯数
空 撃	3	16,901	43	206,424	115	320,127	397	1,256,509	344	802,656	902	2,602,617
雷 撃	6	31,673	142	609,925	293	1,312,353	567	2,388,709	145	420,826	1,153	4,763,486
触 雷	0	0	12	48,670	9	17,644	15	33,624	214	468,225	250	568,163
砲 撃	0	0	3	14,092	2	3,853	0	0	4	2,486	9	20,431
自 爆	0	0	1	4,383	1	3,883	0	0	1	5,244	3	13,510
不 詳	0	0	3	1,434	6	10,226	22	11,238	35	20,413	66	43,311
その他	0	0	0	0	0	0	8	3,946	3	2,658	11	6,604
計	9	48,574	204	884,928	426	1,668,086	1,009	3,694,026	746	1,722,508	2,394	8,018,122

（『日本海軍の戦時遭難史』より）

上陸予定海岸はコタバル・シンゴラ・パタニ・タペーなどだが、特にマレー半島のコタバル海岸上陸では夜間の暗視飛行の出来ぬ日本軍は大損害を蒙ったものの、リングエン湾上陸作戦は順調に展開し、その後ボルネオ・セレベス・スマトラと上陸作戦が実行された。この時期日本軍はまだ緒戦のことで制海制空権を確保していた他に、マニラ・キャビテ軍港の魚雷集積庫を日本の潜水艦が爆破したため、補給が困難となっていたので輸送船は安全に航

行出来たのである。連合軍側の体制が整っていないこともあり、東はニューギニア・ガダルカナル島、西はアンダマン島にまで日本軍は拡大したものの日本軍の船団に対する護衛体制は未整備のままであった。

第2期 ミッドウェー海戦敗北と情報傍受

(昭和17年6月～17年12月)

昭和17年4月18日、米軍B-25爆撃機による東京・名古屋・神戸の初空襲は日本の軍部を驚かせるに充分であった。それは米空母から爆撃機を発進させるというもので、実に効率の良い空襲作戦を完成させていた。

当初の日本軍はまず島や半島を征服して飛行場を設営し、そこから爆撃機を飛び立たせるために必要となる島々の分捕り合戦をしていたところ、この方法だと多くの島は不要で、必要な基地としての島が確保されればそれで良かったのである。日本の首都東京を空襲から守らねば、日本の敗戦は早晚やってくると思った軍部は、米機動部隊の集結するミッドウェー島を撃滅することがまず先決であると考え作戦を準備することにしたが、結局6月6日のミッドウェー海戦の敗北により、一気に守勢に回ることとなった。この敗北は、ベテランパイロットを多く戦死させたことにより、空中戦のみならず輸送船による兵站作戦が困難となっていった。日本軍には空軍は無く、海軍・陸軍ともにそれぞれが航空隊を保有していた。しかしながら、米軍には空軍が存在し、その威力は日本人の想像を超えるものであった。しかも、真珠湾攻撃の勝利の傲りから、軍部はまだその現実を直視していなかったようだ。

アメリカとオーストラリアの補給路を遮断するためのFS作戦(ニューカレドニア・フィジー・サモア攻略作戦=途中で断念)と、MO作戦(ポート・モレスビー攻略作戦=挫折)、それにSN作戦(ソロモン諸島・ニューギニア東部に航空基地を設営させまいとしてガダルカナル島の上陸作戦を行った)など、膨大な日本軍の作戦計画は、却って日数と輸送船や乗組員の喪失に繋がる結果となった。

当時の日本軍は、輸送ルートの中樞拠点(基地)をトラック島とラバウル(ニューブリテン島)に置き、そこから最前線のガダルカナルやニューギニア北部などへ兵士・軍需品を輸送した。

ところが、8月7日米軍が大挙してガダルカナル島へ上陸してきた。死守すべしと日本軍の一木支隊・川口支隊が波状的に上陸するもほぼ全滅という状況であった。10月に入ると増援軍を送り何とか制空・制海権を取り戻そうとしたものの、動けば動く程被害・損害も多く、撤退は時間の問題であった。多くの優秀な輸送船と、多量の武器・弾薬・食糧が空爆で炎上し、かけがえのない多くの兵士・船員の命を奪っていった。

昭和17年12月31日、漸く出されたガダルカナル島撤退命令で作戦は終りを告げたが、この撤退は太平洋戦争の実質的敗戦を意味していた。太平洋戦争のこの時期、アメリカと日本の戦いには大きな違いがあった。アメリカにはレーダーが開発されていて、真珠湾攻撃の時もすでに日本の機影を捉えていた。日本は海軍の伝統的な夜戦攻撃を採っていたので、夜とはいえ敵からはつぶさに見張られていたことになる。また、暗号も昭和18年ごろから解読されていて、ミッドウェー海戦では商船暗号がほぼ完全に解読されていた。

この後も戦争は続くのだが、日本軍の手の内を知った連合軍は執拗に攻撃をしかけ、またこの事実を知らぬ日本軍は疑問にも思わず戦いを続行し、悲惨な泥沼に沈んでいくことになるのである。

第3期 ガダルカナル島撤退後にやまめ陥落・玉砕

(昭和18年1月～19年7月)

大本営は昭和17年12月31日にガダルカナル島撤退を決定したが、その後も戦闘は続き、全てが撤退したのは翌18年2月7日の夜のことであった。上陸以来約半年の攻防で21,000人もの将兵が戦死したが、これは日本の生命線を守るという意味では大きな戦いであった。そしてこの日本軍の敗北から連合軍の本格的な反攻が始まったのである。

昭和18年4月18日、真珠湾攻撃を指揮した連合艦隊司令長官山本五十六海軍大将がブイン上空で戦死するなど、日本軍は大きな精神的支柱を失い、また開戦前からの陸・海軍の意識の差から打つ手が後手後手に回ったり、空回りであったりと効率的ではなかった。加えて昭和18年夏から連合軍はヨーロッパ戦線で、ソ連軍が攻勢に転じたことから、戦局は大いに連合軍に傾いてきたので、米国は戦力を太平洋にシフトすることが出来た。更にこの頃には総ての米国潜水艦にレーダーの装着が完了し、日本の優秀戦艦が次々と標的となっていった。米国はこの秋までにラエ・サラモア・ブーゲンビル島・ギルバート諸島などに上陸し、飛び石作戦と称して島々に飛行場を設営していった。

一方日本軍は、絶対的な国防圏をマリアナ諸島（中心：サイパン島）からカロリン諸島（中心：トラック島）と定めて対応しようとしたが、各作戦に必要な輸送力に問題があった。その解決策には陸海軍の協調が必要だが、終始得られなかったというより協調の発想がなかったというべきであろう。

かくして日本軍は各地で撤退・玉砕・陥落を続け、後退に次ぐ後退を強いられたのである。つまり、5月29日にアッツ島守備隊玉砕、7月29日はキスカ島守備隊撤退。8月5日ムンダ基地陥落、9月16日ラエ・サラモア陥落。10月2日フィンシハーフェン陥落、同日コロンバンガラ島守備隊撤退、10月6日ベララベラ島守備隊

撤退、11月25日マキン・タラワ両守備隊玉砕と悲劇は続くが、ヨーロッパではイタリアが9月8日に無条件降伏し、残るドイツに対して連合軍は集中していくことになった。日本軍はそんな状況のもと、学生・生徒の徴兵猶予を撤廃し、国民の兵役を45歳まで延長して兵力を確保し、昭和18年12月1日第1回学徒兵入営、いわゆる学徒出陣を果たしたのである。また米軍空爆を避けるため学童疎開を急いだ。そして昭和19年に入ると1月8日に学徒勤労働員を決定し、1月19日には女子挺身隊を結成し、いよいよ国民総力戦に突入したのである。

しかし戦況は悪化するばかりで、昭和19年1月から4月にかけて連合軍はマーシャル諸島へ進攻を開始し、グリーン島に上陸、クエゼリン島・ルオット島の日本軍守備隊は玉砕、トラック島は大空襲を受け、ブラウン環礁守備隊玉砕、ウボン島守備隊玉砕、マダン陥落、ホーランドディア陥落と続き、ついに7月7日には死守すべきサイパン島が陥落し、遠く異国での戦闘は圧倒的に後退が日常化していた。

一方、本土でも6月16日は爆撃機B-29が63機をもって北九州に来襲し、8月に入ると本土空襲は一段と激しくなり、いよいよ国民総玉砕へ向かって進むことになった。

第4期 目標なき徹底抗戦

(昭和19年8月～20年1月)

この頃の日本軍は南方へのルートではフィリピンのマニラが重要な寄港地であった。この地は昭和17年1月に日本軍が占領し、軍政を敷いたため防衛力は強化され、軍需物資輸送に万全を期していた。しかしこのルートもいよいよ危なくなっていた。

輸送船はすでに米潜水艦の餌食になるしかなく、それでも出航してなんとか任務を果たそうとしても、いずれ空襲が待っている状態であった。それを知っていて、それでも出航させられた船団は数多くあった。ヒ71船団（伊万里湾8月10日発→マニラ20隻中15隻沈没）、モマ05船団（門司11月1日発→マニラ12隻中5隻沈没）、モマ07船団（三池11月10日発→マニラ11隻中4隻沈没）、ヒ81船団（伊万里湾11月14日発→マニラ10隻のうち3隻沈没）などの悲劇が繰り返された。

昭和19年10月20日、米軍がレイテ島に上陸すると大本営はレイテ島を決戦場と決め、関東軍の精鋭第1師団と中国北部で八路軍と戦った第26師団を投入したが、同年12月19日レイテ決戦を放棄し、ルソン島に再び決戦場を移す作戦であった。しかしそこもその時すでに南方から日本への物流のルートは断ち切られていたのである。

一方本土では10月25日に海軍神風攻撃隊が攻撃を開始し、11月6日に政府が戦争完遂に関する声明を発表し国民の徹底抗戦を

鼓舞するものの、11月24日80機ものB-29の東京空襲に国民は死への恐怖を現実のものとした。以後B-29の空襲は激化を辿り、各地の都市も狙い打ちされたのである。

第5期 終末戦 (昭和20年2月～8月)

異国での戦闘は物資の補給路をほぼ断たれているため、日本軍は悲劇の連続であった。昭和20年3月17日本土に近い硫黄島で守備隊が玉砕に及んで、日本軍は中部太平洋の制空圏を奪われ、そのため輸送船の安全は極めて不安定な状態となっていった。

一方米軍は3月26日に沖縄の慶良間群島に上陸し、沖縄本島上陸前の給油、船舶泊地の確保という準備作戦を行なう余裕があった。

これに対して日本軍は、2月頃よりすでに一応増強輸送が開始され、船団が鹿児島から出航していたものの、すでに大型の優秀艦は喪失しており、しかもこの時でさえ日本軍の因習による非効率な判断があちこちにあった。そのため、みすみす敵の攻撃を受けて全滅する船団があった。

5月8日、ヨーロッパではドイツが無条件降伏したことで、同日アメリカ大統領は日本にも無条件降伏を勧告したが、日本政府は翌日戦争遂行の声明を出し、国民総玉砕の道を選んだ。6月22日天皇が最高戦争指導会議で終戦の意図を御下命され、翌23日沖縄の守備隊が玉砕するも、戦争の終結には至らず、やがて8月6日B-29による原子爆弾の投下が広島に、8月9日は長崎に投下され、翌10日にポツダム宣言を受諾したものの国民には知らされず、8月15日昭和天皇の玉音放送により初めて敗戦の事実を知ったのである。

太平洋戦争による国富被害状況 (単位100万円)

	被害額	残存国富	合計	被害率
建築物	22,220	68,215	90,435	24.5%
工業用機械器具	7,994	15,352	23,346	34.2%
船舶	7,359	1,766	9,125	80.6%
電機ガス供給設備	1,618	13,315	14,933	10.8%
鉄道軌道及び諸車	1,523	13,802	15,415	9.8%
電報電話水道設備	659	3,497	4,156	15.8%
生産品	7,864	25,089	32,953	23.8%
家財家具	9,558	36,869	46,427	20.5%
その他	5,483	10,857	16,340	33.5%
計	64,278	188,852	253,130	25.3%

経済安定本部「太平洋戦争による我が国の被害総合報告」による(昭和24年4月発表)
(『戦時輸送船運見』より)

(フェルケール博物館学芸部長 西野和豊)



1 扶桑丸

大阪商船所有
1908年5月建造

1908年(明治41)5月竣工、パークレー&カール社建造。旧名ラトヴィア号(1923年(大正12)購入のアンマーク船)。1944年(昭和19)7月31日、ルソン島北方30度にて雷撃で沈没。



2 大洋丸

日本郵船所有
1911年8月建造

1911年(明治44)8月竣工、ドイツ・ハンブルクで建造。旧名カプフィンスター(1929年(昭和4)5月4日、大蔵省私下)。1942年(昭和17)5月8日、九州男女群島にて雷撃で沈没。



3 蓬萊丸

大阪商船所有
1912年11月建造

1912年(明治45)11月竣工、W.デニー社建造。1923年(大正12)購入のベルギー船。1942年(昭和17)3月1日、スダダ海峡にて雷撃で沈没。



4 対馬丸

日本郵船所有
1914年12月建造

1914年(大正3)12月22日竣工、イギリス・ラッセル社建造。沖縄学童疎開船。1944年(昭和19)8月22日、南西諸島近海にて雷撃で沈没。



5 はわい丸

南洋海運所有
1915年5月建造

1915年（大正4年）5月18日竣工、川崎造船所建造。
1944年（昭和19）12月2日、屋久島西方にて雷撃で沈没。



6 ありぞな丸

大阪商船所有
1920年6月建造

1920年（大正9）6月20日竣工、三菱長崎建造。1942年（昭和17）11月14日、ガダルカナル島北方にて空爆で沈没。ガダルカナル・ニューギニア方面で活躍した船。



7 りすぼん丸

日本郵船所有
1920年7月建造

1920年（大正9）7月8日竣工、三菱横浜造船所建造。
1942年（昭和17）10月1日、舟山列島東方にて雷撃で沈没。



8 チェリボン丸

南洋海運所有
1920年8月建造

1920年（大正9）8月竣工、神戸・川崎建造。1942年（昭和17）11月27日、アッツ島にて空爆で沈没。



9 箱根丸

日本郵船所有
1921年11月建造

1921年（大正10）11月1日竣工。三菱長崎造船建造。
1943年（昭和18）11月28日、南支厦門沖にて雷撃で沈没。



10 勝間丸

拿捕船
1921年6月建造

1921年（大正10）6月4日竣工。ニューヨーク造船所建造。旧名プレジデント・ハリソン号（1941年（昭和16）12月8日、長崎丸にて拿捕）。1944年（昭和19）9月12日、東沙島西南西300海里にて雷撃で沈没。



11 笠崎丸

日本郵船所有
1922年6月建造

1922年（大正11）6月1日竣工。三菱長崎建造。1945年（昭和20）3月19日、上海北方にて雷撃で沈没。



12 赤城山丸

三井物産所有
1924年7月建造

1924年（大正13）7月竣工。レイテ輸送作戦に参加。
1944年（昭和19）12月7日、レイテ島北西岸インドロ沖にて空襲で沈没。



13 さんとす丸
大阪商船所有
1925年12月建造

1925年（大正14）12月10日竣工、三菱長崎竣工。
1944年（昭和19）11月25日、南支那海にて雷撃で沈没。



14 帝興丸
帝國船舶所有
1925年8月建造

1925年（大正14）8月24日竣工。1944年（昭和19）2月22日、南支那海にて雷撃で沈没。



15 もんてびでお丸
大阪商船所有
1926年8月建造

1926年（大正15）8月竣工、三菱長崎建造。1942年（昭和17）7月1日、比島西北端にて雷撃で沈没。



16 うرار丸
大阪商船所有
1929年3月建造

1929年（昭和4）3月竣工、三菱長崎建造。1944年（昭和19）9月27日、南支那海にて雷撃で沈没。



17 浅間丸

日本郵船所有
1929年9月建造

1929年（昭和4）9月15日竣工、三菱長崎建造。1944年（昭和19）11月1日、南支那海にて雷撃で沈没。



18 ぶえのすあいれす丸

大阪商船所有
1929年10月建造

1929年（昭和4）10月31日竣工、三菱長崎建造。1943年（昭和18）11月27日、ニューアイルランド西方海上にて空襲で沈没。



19 りおでじゃねろ丸

大阪商船所有
1929年5月建造

1929年（昭和4）5月竣工、三菱長崎建造。海軍運送艦（特設潜水母艦）。1944年（昭和19）2月17日、トラック島港内にて空襲で沈没。



20 ぶりすべん丸

大阪商船所有
1930年5月建造

1930年（昭和5）5月竣工、横浜船渠建造。1942年（昭和17）11月14日、ガダルカナル島北方にて空襲で沈没。



21 めるぼろん丸

大阪商船所有
1930年3月建造

1930年（昭和5）3月竣工、横浜船渠建造。1945年（昭和20）1月、台湾基隆ドックにて、米軍の拿捕海防艦の搭載したレーダーを取り外して装備した。1945年（昭和20）8月9日、朝鮮半島羅津港内にて荷役中、ソ連の空爆で沈没。同型船として、ぶりすべん丸とどにい丸がある。



22 鎌倉丸

日本郵船所有
1930年3月建造

1930年（昭和5）3月10日竣工、横浜船渠建造。1939年（昭和14）1月18日、秩父丸から改名。1943年（昭和18）4月28日、比島付近にて雷撃で沈没。



23 平洋丸

日本郵船所有
1930年3月建造

1930年（昭和5）3月15日竣工、大阪鉄工所建造。1943年（昭和18）1月、トラック島北西沖で雷撃にて沈没。



24 氷川丸

日本郵船所有
1930年4月建造

1930年（昭和5）4月25日竣工、横浜船渠建造。特設病院船。終戦時残存。1961年（昭和36）2月28日、木川丸観光へ売却。



25 靖国丸 ①

日本郵船所有
1930年8月建造

1930年(昭和5)8月31日竣工、三菱長崎建造。1944年(昭和19)1月24日、トラック島北西沖にて雷撃で沈没。



26 靖国丸 ②

25に同じ



27 帝洋丸

日東汽船所有
1930年5月建造

1930年(昭和5)5月竣工、横浜船渠建造。陸軍運送船。1944年(昭和19)8月19日、比島沖にて雷撃で沈没。



28 帝亜丸

帝国船舶所有
1932年8月建造

1932年(昭和7)8月竣工。1944年(昭和19)8月18日、比島沖にて雷撃で沈没。



29 能登丸

日本郵船所有
1934年10月建造

1934年（昭和9）10月15日竣工、三菱長崎建造。1944年（昭和19）11月2日、オルモック湾にて空襲で沈没。画は1944年10月27日頃、レイテ輸送作戦に基軍する場面。



30 日本丸

山下汽船所有
1936年6月建造

1936年（昭和11）6月竣工、川崎造船建造。1944年（昭和19）1月14日、西カロリン諸島付近にて雷撃で沈没。



31 音羽山丸

三井物産所有
1936年3月建造

1936年（昭和11）3月竣工、三井玉造船所建造。1944年（昭和19）12月22日、仏印沖にて雷撃で沈没。



32 衣笠丸

国際汽船所有
1937年2月建造

1937年（昭和12）2月竣工、川崎造船所建造。1944年（昭和19）10月7日、南支那海にて雷撃で沈没。



33 香椎丸

国際汽船所有
1936年4月建造

1936年（昭和11）4月竣工、播磨造船所建造。1944年（昭和19）11月10日、レイテ島西岸オルモック湾にて空襲で沈没。その後、この画は1944年（昭和19）11月23日頃、同じ輸送作戦に同航した輸送船の戦争場面を、隣にいた金華丸船にて下絵を描いた。



34 香久丸

国際汽船所有
1936年6月建造

1936年（昭和11）6月30日竣工、播磨造船所建造。1944年（昭和19）11月17日、リングエン沖にて雷撃で沈没。



35 太明丸

日本郵船所有
1936年7月建造

1936年（昭和11）7月竣工、三菱横浜建造。ラエ・サラモア増員輸送作戦参加。1943年（昭和18）3月3日、ニューギニア島ラエ沖にて空襲で沈没。



36 神川丸

川崎汽船所有
1937年3月建造

1937年（昭和12）3月竣工、神戸川崎建造。特設水上機母艦。1943年（昭和18）5月28日、カビエング北方にて雷撃で沈没。この画は、太平洋戦争遂軍中に上田氏が船舶砲兵として陸軍輸送船に乗り込み、1942年（昭和17）11月頃から1943年（昭和18）4月頃まで、北方作戦として千島列島最北端占守島と幌筈島間の片岡湾基地に、アリューシャン列島方面の輸送作戦の時に片岡湾で望見した海を絵に描いたものである。その光景と描いたものが、海軍水上機母艦・神奈川丸の戦時作戦中の光景である。



37 栗田丸

日本郵船所有
1937年12月建造

1937年（昭和12）12月23日竣工、三菱長崎建造。海軍時設仮装巡洋艦。1943年（昭和18）10月22日、琉球那覇沖にて雷撃で沈没。



38 浮島丸

大阪商船 所有
1937年3月建造

1937年（昭和12）3月15日竣工、三井造船建造。終戦時残存。1945年（昭和20）8月24日、舞鶴湾にて敵雷で沈没。



39 九州丸

原田汽船所有
1938年5月建造

1938年（昭和13）5月竣工、三菱長崎建造。ガダルカナル島方面に出陣した軍隊輸送船（防空船）。1942年（昭和17）10月14日、ガダルカナル島北方にて空爆で沈没。



40 金華丸

国際汽船所有
1938年2月建造

1938年（昭和13）2月28日竣工、神戸川崎建造。1944年（昭和19）9月頃、中国・上海からマニラへ軍隊輸送中の輸送船団。1944年（昭和19）11月14日、フィリピン・マニラ港内にて空爆で沈没。背景に、左から浅間丸（日本郵船）・能登丸（日本郵船）・高津丸（山下汽船、陸軍特殊輸送船MT型）が航行中。



41 鬼怒川丸

東洋海運所有
1938年11月建造

1938年(昭和13)11月12日竣工。1942年(昭和17)11月15日、ガダルカナル島にて空襲で沈没。



42 ぶらじる丸

大阪商船所有
1939年12月建造

1939年(昭和14)12月竣工、三菱長崎建造。1942年(昭和17)8月5日、トラック島北方にて雷撃で沈没。



43 淡路山丸

三井物産所有
1939年7月建造

1939年(昭和14)7月竣工、三井造船所建造。1941年(昭和16)12月12日、ルソン島パターン沖にて空襲で沈没。



44 佐渡丸

日本郵船所有
1939年6月建造

1939年(昭和14)6月30日竣工、三菱長崎建造。1942年(昭和17)11月18日、ソロモン群島にて空襲で沈没。



45 神國丸

神戸商船所有
1940年2月建造

1940年（昭和15）2月28日竣工、神戸川崎建造。1944年（昭和19）2月17日、トラック島にて空襲で沈没。



46 報國丸 ①

大阪商船所有
1940年6月建造

1940年（昭和15）6月15日竣工、三井五造船所建造。海軍特設送洋艦。1942年（昭和17）11月11日、インド洋ココス島沖にて戦没。この画は迷彩船の時の姿。



47 報國丸 ②

大阪商船所有
1940年6月建造

1940年（昭和15）6月15日竣工、三井五造船所建造。海軍特設送洋艦。1942年（昭和17）11月11日、インド洋ココス島沖にて戦没。この画は迷彩をしていない時の姿。



48 相模丸

日本郵船所有
1940年7月建造

1940年（昭和15）7月6日竣工、三菱横浜造船所建造。太平洋戦争中初期の1942年（昭和17）初頭の姿。1942年（昭和17）11月3日、比島ミンダナオ島ダバオ港にて雷撃で沈没。



49 綾戸山丸

三井物産所有
1941年2月建造

1941年（昭和16）2月竣工。三井玉造船所建造。1942年（昭和17）7月22日、ニューギニア島・パラプア沖にて空襲で沈没。背景に、左から淡路丸（三井船舶）・佐倉丸（日本郵船）が航行中。



50 大井川丸

東洋海運所有
1941年5月建造

1941年（昭和16）5月竣工。1943年（昭和18）3月3日、ニューギニア・ラエ沖にて空襲で沈没。



51 三池丸

日本郵船所有
1941年9月建造

1941年（昭和16）9月30日竣工。三菱長崎建造。1944年（昭和19）4月27日、パラオ島北方にて雷撃で沈没。この図は1943年（昭和18）頃、シンガポールより内地へ南支那海航行中の輸送船団。



52 護國丸

大阪商船所有
1942年8月建造

1942年（昭和17）8月竣工。三井玉造船所建造。日本海軍輸送船。1944年（昭和19）11月17日、東支那海にて雷撃で沈没。



53 安藝丸

日本郵船所有
1942年10月建造

1942年（昭和17）10月15日竣工、三菱長崎建造。
1944年（昭和19）7月26日、リングエン北西180浬にて雷撃で沈没。



54 秋津丸（あきつ丸）

日本海運所有
1942年1月建造

1942年（昭和17）1月竣工、播磨造船建造。陸軍舟艇母船。1944年（昭和19）11月15日、九州西方にて雷撃で沈没。



55 摩耶山丸

三井物産所有
1942年12月建造

1942年（昭和17）12月竣工、三井五造船所建造。1944年（昭和19）11月17日、済洲島西方にて雷撃で沈没。



56 阿波丸①

日本郵船所有
1943年3月建造

1943年（昭和18）3月5日竣工、三菱長崎建造。1945年（昭和20）4月1日、台湾海峡にて雷撃で沈没。



57 阿波丸 ②

56に同じ



58 阿波丸 ③

56に同じ



59 高津丸 ①

山下汽船所有
1944年1月建造

1944年(昭和19)1月21日竣工。浦賀船渠建造。1944年(昭和19)11月10日、レイテ島西岸オルモック湾にて空襲で沈没。この日は1944年11月、レイテ島特攻輸送作戦に参加航行中の姿。



60 高津丸 ②

山下汽船所有
1944年1月建造

1944年(昭和19)1月21日竣工。浦賀船渠建造。1944年(昭和19)11月10日、レイテ島西岸オルモック湾にて空襲で沈没。金華丸船首の高射砲の砲手である上田氏が目の前で目撃した。



61 久川丸 (部分図)

川崎汽船所有
1944年9月建造

1944年(昭和19)9月竣工。2A型戦時型戦艦標榜。1945年(昭和20)1月9日、台湾西岸安平沖にて空襲で沈没。



62 日洋丸 (部分図)

東洋汽船所有
1943年6月建造

1943年(昭和18)6月竣工。1944年(昭和19)12月7日、レイト島北西岸インドロにて空襲で沈没。



63 丙型・丁型海軍海防艦 (部分図)

日本海軍所有

11月～12月、東支那海の荒天の海を輸送船団護衛中の状況。(非徴用船)



64 丙型海軍海防艦 (部分図)

日本海軍所有

荒天の海を輸送船団の護衛中の画。(非徴用船)



65 丁型海防艦 (部分図)

日本海軍所有

1945年(昭和20)1月頃、日本近海を船団護送中の画。(非徴用船)

年表

昭和 年月日	記 事
16. 7. 7	大本管関東軍特別大演習を発動
25	米英蘭日本資産を次々に凍結(～7/27)
28	日本軍南部仏印進駐開始/ ABCD(米・英・中・国・蘭)包囲陣成る
8. 9	大本管陸軍部帝國陸軍作戦要綱を決定
9. 1	全海軍戦時編制発令
22	日枝丸インド、アフリカ方面邦人引揚船として神戸出帆
10.16	近南内閣総辞職
18	東条内閣成立
	15日龍田丸、20日水川丸、22日大洋丸それぞれ米国方面邦人引揚船として横浜出帆
11. 5	御前会議で対米交渉案、対米英蘭戦争決意を決定、連合艦隊に戦争準備を発令
6	浅間丸マレー比島方面邦人引揚船として横浜出帆、中止命令により引返す/大本管南方軍に南方要域と香港攻略準備を発令
	14日龍田丸、17日大洋丸、18日水川丸横浜帰港
16	富士丸蘭印方面邦人引揚船として基隆出港、12月6日基隆帰港
21	日枝丸神戸に帰港
26	ハワイ奇襲部隊千島を出撃/ハル長官日本案を拒否、強硬なる新提案(ハルノート)を提示
27	大本管政府連絡会議ハルノートを日本に対する最後通牒と結論/在上海の米海兵隊引揚げ
12. 1	全マレー非常事態宣言/御前会議で対米英蘭開戦を決定
2	龍田丸中米方面邦人引揚船として横浜出帆、開戦のため引返し12月14日横浜帰投
8	太平洋戦争開戦/真珠湾を奇襲し米太平洋艦隊主力を激減/マレー半島に上陸/タイ国へ進駐開始
9	バンコックへ進駐
10	マレー沖海戦、英戦艦2隻撃沈/ルソン島アバリ、ピガンに上陸/グアム島に上陸
11	日独伊三国協定調印/独伊対米宣戦布告/グアム島占領
12	閣議で戦争の名称を大東亜戦争と決定/九竜市街占領
14	香港総攻撃開始
16	英領ボルネオに上陸/第78臨時議会開会、12月17日閉会
19	ベナン島占領
20	ミンダナオ島に上陸
22	比島攻略部隊主力リンガエン湾に上陸
23	ウエーキ島占領
24	第79議会召集
25	香港陥落
17. 1. 2	マニラを占領、軍政を布告/閣議で毎月8日を大詔奉戴日と決定

昭和 年月日	記 事
11	日本オランダに宣戦布告/海軍落下傘部隊メナドに降下占領
16	大日本翼賛壮年団結成式
18	日独伊軍事協定調印
19	第1回重臣会議開催
23	ラバウル占領/比島新政府行政機構を確立
31	アンボン島に上陸/モルメンを占領
2. 4	ジャワ沖海戦
14	陸軍の落下傘部隊バレンバンに降下、17日占領
15	シンガポール占領、昭南市と改称
19	バリ島沖海戦
20	チモール島占領
22	チャンドラポース日印提携独立を声明
23	バリ島占領
27	スラバヤ沖海戦
28	バタビア沖海戦
3. 1	ジャワ沖海戦、ジャワ島上陸
8	ラングーン占領、ラエ、サラモア上陸
9	ジャワ島完全占領
17	マッカーサー比島脱出、豪州到着
23	アングマン諸島を占領
25	第79議会開会/戦時海運管理令公布
27	特設海上護衛隊創設/スマトラ島を占領
4. 1	船舶運管会創立
3	バターン半島総攻撃開始、11日占領
18	米機16機東京、名古屋、神戸等を初空襲
19	マッカーサー南西太平洋連合軍司令官に就任
5. 7	コレヒドール要塞を占領/珊瑚海海戦
20	翼賛政治会結成
27	第80臨時議会開会
31	特殊潜航艇マダガスカル、シドニーを襲撃
6. 5	ミッドウェー海戦
7	キスカ島占領
8	アッツ島占領
11	関門トンネル完成
13	ニコバル諸島を占領
17	浅間丸日米外交官等交換船として横浜出帆
25	ワシントンにおいて太平洋軍事会談開始
7.11	大本管は南太平洋進攻作戦を中止し、ポートモレスビーへの陸路進行を下命
22	ブナ、ゴアを占領
30	龍田丸日米外交官等交換船として横浜出帆
8. 7	米海兵師団ツラギ、ガダルカナル島に上陸
8	第一次ソロモン海戦
10	鎌倉丸日米外交官等交換船として横浜出帆
18	一木支隊先遣隊としてガダルカナル島タイボ岬に上陸
19	浅間丸横浜帰港
21	一木支隊全滅
24	第二次ソロモン海戦

昭和 年月日	記 事
29	川口支隊ほかガダルカナル島増援開始
9. 5	南海支隊オーエンスタンレー山系頂上に進出
14	川口支隊攻撃不成功
15	ガダルカナル島カミンボに増援兵力を揚陸
26	ポートモレスビー攻略を中止、撤退
27	龍田丸横浜帰港
10.3	第二師団主力ガダルカナル島に進出(～10/17)
9	鎌倉丸横浜帰港
11	サボ島沖夜戦
24	ガダルカナル島総攻撃開始、10月25日不成功
26	南太平洋海戦
11. 1	ブナ輸送不成功
2	ガダルカナル島タサファロンガ、コリ岬に輸送成功
5	連合軍ガダルカナル島に増兵
7	第81議会召集
14	ガダルカナル島増援の第38師団を輸送／第三次ソロモン海戦
16	連合軍ブナ南方に上陸
17	ブナ方面に増援部隊を揚陸
21	船舶29万トンの増徴を決定
28	連合軍機ブインに大挙来襲
30	ルンガ沖夜戦
12. 8	バサバア守備隊玉砕
10	大本営政府連絡会議で貨物船19万トンの応急油槽船改造を決定
26	第81議会閉会
31	大本営ガダルカナル島撤退作戦を決定
18. 1. 2	ブナ守備隊玉砕
26	閣議で船員の論功行賞を決定
29	レンネル島沖海戦
2. 1	イサベル島沖海戦
7	ガダルカナル島撤退完了
3. 3	ラエ増援の輸送船8隻ダンピール海峡で全滅
26	第81議会閉会
27	アツ島沖海戦
4. 7	フロリダ島沖海戦
18	連合艦隊司令長官山本五十六海軍大将ブイン上空で戦死
5.12	米軍アツ島に上陸
29	アツ島守備隊玉砕
31	ビルマ、比島の独立を決定
6.16	ルンガ沖航空戦／第82臨時議会開会、19日閉会
30	連合軍レンドバ島に上陸／連合軍ニューギニア島ナツウ湾に上陸
7. 1	東京部制実施
5	クラ湾夜戦
12	コロバンガラ島沖夜戦
25	ムッソリーニ伊首相失脚
29	キスカ島守備隊撤退
30	女子学徒動員決定

昭和 年月日	記 事
8. 5	ムンダ基地陥落
12	ブーゲンビル島沖航空戦
23	連合軍キスカ島に上陸
25	連合軍ニュージョージア島占領
9. 4	連合軍ラエ、サラモアに上陸
8	イタリア無条件降伏
13	帝重九日米外交官等交換船として横浜出帆
15	ラエ、サラモア守備隊撤退／連絡会議で「昭和18年度造船計画に関する件」を決定
16	ラエ、サラモア陥落
22	学生、生徒の徴兵猶予を撤廃
30	船舶25万トン増徴を決定
10. 2	フィンシハーフェン陥落／コロバンガラ島守備隊撤退
6	ベララベラ島守備隊撤退／ベララベラ島沖海戦
14	比島共和国独立宣言
21	出陣学徒走行会神宮外苑で挙行
11. 1	連合軍ブーゲンビル島に上陸／国民兵役を45歳までに延長
2	ブーゲンビル島沖海戦
5	ブーゲンビル島沖航空戦始まる
7	日本軍ブーゲンビル島に上陸
14	帝重丸横浜帰港
15	海上護衛総司令部発足
21	連合軍マキン、トラフ両島に上陸
22	ギルバート諸島沖航空戦始まる／米英支三頭首カイロ会談を開く
25	マキン、トラフ両守備隊玉砕
28	米英ソ三頭首テヘラン会談を開く
12. 1	第1回学徒兵入營(学徒出陣)
5	マーシャル諸島沖航空戦
10	学童疎開を促進
15	連合軍ニューブリテン島マーカス岬に上陸
24	徴兵年齢を19歳とする特別公布
26	第84議会開会
19. 1. 8	学徒勤労働員を決定
9	B29が46機で基隆空襲
11	本年度船舶190万トン建造を決定
18	緊急国民勤労働員を決定
19	女子挺身隊結成
30	連合軍マーシャル諸島へ進攻開始／連合軍グリーン島に上陸
2. 1	連合軍クエゼリン、ルオット両島に上陸
4	クエゼリン、ルオット両島守備隊玉砕
17	トラック島大空襲を受ける
21	船舶17万トンの増徴を決定
22	ブラウン環礁守備隊玉砕
26	松輸送作戦開始
3.15	連合軍マズス島、エミール島に上陸
24	連合軍ウボン島に上陸、守備隊玉砕

昭和 年月日	記 事
25	第84議会閉会
30	船舶建造255万トンを決議
31	米機動部隊パラオ、ヤップ両島に上陸／連合艦隊司令長官古賀峯一大将ミンダナオ島上空で戦死
4. 1	米機動部隊トラック、パラオを空襲
24	マダン陥落
26	ホーランドヤ陥落
5.17	連合軍サルミ、ワクデに上陸
20	自家製塩を奨励
27	連合軍ビアク島に上陸
6. 4	日本軍ビアク島逆上陸（渾作戦）
15	米軍サイパン島に上陸、あ号作戦発動
16	B29が93機で北九州来襲
19	マリアナ沖海戦
7. 2	連合軍スンホル島に上陸
7	サイパン島守備隊玉砕
18	東条内閣総辞職
21	米軍グアム島に上陸
22	小磯内閣内閣成立
24	米軍テナン島に上陸
8. 3	テナン島守備隊玉砕
11	B29の本土空襲活発となる／グアム島守備隊玉砕
22	沖縄の疎開学童700人対馬丸で遭難
9. 1	台湾に徴兵制施行
7	第85臨時議会閉会
12	第85臨時議会閉会
15	米軍ペリリュー、モロタイ両島に上陸
17	連合軍アンガウル島に上陸
21	米機動部隊マニラを空襲
23	米軍ウルシー環礁を占領
10.12	台湾沖航空戦
17	米軍レイテ湾ロスラン島に上陸
18	大本営捷1号作戦発動下令
19	アンガウル島守備隊玉砕
20	米軍レイテ島上陸
21	油槽船6万トンの増徴を決定
25	比島沖海戦、連合艦隊の主力を失う／海軍神風特別攻撃隊攻撃開始
11. 6	政府戦争完遂に関する声明発表
7	ルーズベルト米大統領4選
24	B29が80機で東京初空襲
27	ペリリュー島守備隊玉砕
12.15	米軍ミンドロ島に上陸
19	大本営レイテ地上決戦を放棄
21	船舶15万トンの増徴を決定
26	第86議会閉会
20. 1. 1	米紙日本襲撃船爆弾モンタナ州落下を報道
9	米軍ルソン島リンガエン湾に上陸

昭和 年月日	記 事
20	船員動員令、船舶待遇職員令公布
21	船舶15万トンの増徴を決定／米機動部隊、B29による空襲激化
2.17	緑十字船阿波丸門司港出港
19	米軍硫黄島に上陸
26	米軍マニラを占領
3.17	硫黄島守備隊玉砕
26	米軍沖縄慶良間列島に上陸／第86議会閉会
30	第日本政治会結成
4. 1	米軍沖縄本島に上陸／阿波丸台湾海峡で撃沈される
5	小磯内閣総辞職、鈴木貫太郎内閣成立
12	ルーズベルト米大統領死去
28	ムツリノーニ処刑される
5. 1	大本営に海運総監部を設置、100トン以上の船舶を国家船舶として一元運営、港湾行政も同じ
8	ドイツ無条件降伏／米大統領日本に無条件降伏を勧告
9	政府ドイツ降伏にかかわらず日本の戦争遂行を声明／第87臨時議会閉会、6月13日閉会
6.22	天皇最高戦争指導会議で終戦の意図を御下命／義勇兵役法を公布、国民義勇戦闘隊を戦域ごとに編成
23	沖縄守備隊玉砕
24	政府対ソ交渉による終戦工作開始
26	広田、マリク会談
7. 1	米艦による本土砲撃激化
12	近衛公遣ソ使節を下命
17	米英ソ三巨頭ポツダムにおいて会談開始
18	ソ連近衛使節の派遣を拒否
26	ポツダム宣言を発表
8. 6	B29広島に原子爆弾投下
8	ソ連日本に宣戦布告
9	B29長崎に原子爆弾投下
10	ポツダム宣言受諾
14	御前会議で終戦の聖断下る。終戦の勅書発布
15	正午戦争終結の玉音を放送／太平洋戦争終結／鈴木内閣総辞職、東久邇宮稔彦王内閣成立
9. 3	日本船舶は連合軍総司令部の管理下におかれる

水彩画出品リスト（上田毅八郎画）

	船名	所有	沈没状況	建造年	上田毅八郎作年
1	扶桑丸	大阪商船	1944年(昭和19)7月31日、ルソン島北方30哩にて雷撃で沈没	1908.5	1978.11.12
2	大洋丸	日本郵船	1942年(昭和17)5月8日、九州男女群島にて雷撃で沈没	1911.8	1982.10.1
3	蓬萊丸	大阪商船	1942年(昭和17)3月1日、スダ海峡にて雷撃で沈没	1912.11	
4	対馬丸	日本郵船	1944年(昭和19)8月22日、南西諸島近海にて雷撃で沈没	1914.12	
5	はわい丸	南洋海運	1944年(昭和19)12月2日、屋久島西方にて雷撃で沈没	1915.5	1982.11.15
6	ありぞな丸	大阪商船	1942年(昭和17)11月14日、ガダルカナル島北方にて空爆で沈没	1920.6	1978.10.22
7	りすばん丸	日本郵船	1942年(昭和17)10月1日、舟山列島東方にて雷撃で沈没	1920.7	2003.10
8	チェリボン丸	南洋海運	1942年(昭和17)11月27日、アツツ島にて空爆で沈没	1920.8	1982.11
9	箱根丸	日本郵船	1943年(昭和18)11月28日、南支厦門沖にて雷撃で沈没	1921.11	1982.9.30
10	勝岡丸	拿捕船	1944年(昭和19)9月12日、東沙島西南西200哩にて雷撃で沈没	1921.6	1982.8.15
11	宮崎丸	日本郵船	1945年(昭和20)3月19日、上海北方にて雷撃で沈没	1922.6	1982.10.2
12	赤城山丸	三井物産	1944年(昭和19)12月7日、レイテ島北西岸インドロ沖にて空爆で沈没	1924.7	1982.10.4
13	さんとす丸	大阪商船	1944年(昭和19)11月25日、南支那海にて雷撃で沈没	1925.12	2003.8
14	帝興丸	帝国船舶	1944年(昭和19)2月22日、南支那海にて雷撃で沈没	1925.8	1982.8.19
15	もんでびでお丸	大阪商船	1942年(昭和17)7月1日、比島西北端にて雷撃で沈没	1926.8	2002.12.22
16	うる丸	大阪商船	1944年(昭和19)9月27日、南支那海にて雷撃で沈没	1929.3	1982.9.23
17	浅間丸	日本郵船	1944年(昭和19)11月1日、南支那海にて雷撃で沈没	1929.9	1980.3.26
18	ふえのすあいらす丸	大阪商船	1943年(昭和18)11月27日、ニューアイルランド西方海上にて空爆で沈没	1929.10	1978.10.29
19	りおでじゃねろ丸	大阪商船	1944年(昭和19)2月17日、トラック島港内にて空爆で沈没	1929.5	1985.3
20	ぶりすべん丸	大阪商船	1942年(昭和17)11月14日、ガダルカナル島北方にて空爆で沈没	1930.5	1978.11.6
21	めるぼろん丸	大阪商船	1945年(昭和20)8月9日、朝鮮半島羅津港内にて荷役中、ソ連の空爆で沈没	1930.3	1995.2.12
22	鎌倉丸	日本郵船	1943年(昭和18)4月28日、比島付近にて雷撃で沈没	1930.3	1982.8.20
23	平洋丸	日本郵船	1943年(昭和18)1月、トラック島北西沖で雷撃にて沈没	1930.3	1985.1.11
24	水川丸	日本郵船	終戦時残存船	1930.4	1985.1.3
25	靖国丸①	日本郵船	1944年(昭和19)1月24日、トラック島北西沖にて雷撃で沈没	1930.8	1982.11
26	靖国丸②	◇	◇	◇	
27	帝洋丸	日東汽船	1944年(昭和19)8月19日、比島沖にて雷撃で沈没	1930.5	1982.8.16
28	帝垂丸	帝国船舶	1944年(昭和19)8月18日、比島沖にて雷撃で沈没	1932.8	1982.8.18
29	能登丸	日本郵船	1944年(昭和19)11月2日、オルモック湾にて空爆で沈没	1934.10	
30	日本丸	山下汽船	1944年(昭和19)1月14日、西カロリン諸島付近にて雷撃で沈没	1936.6	1983.1.15
31	音羽山丸	三井物産	1944年(昭和19)12月22日、仏印沖にて雷撃で沈没	1936.3	
32	衣笠丸	国際汽船	1944年(昭和19)10月7日、南支那海にて雷撃で沈没	1937.2	
33	香檳丸	国際汽船	1944年(昭和19)11月10日、レイテ島西岸オルモック湾にて空爆で沈没	1936.4	
34	香久丸	国際汽船	1944年(昭和19)11月17日、リンガエン沖にて雷撃で沈没	1936.6	2008.12
35	太明丸	日本郵船	1943年(昭和18)3月3日、ニューギニア島ラエ沖にて空爆で沈没	1936.7	1980.5.25
36	神川丸	川崎汽船	1943年(昭和18)5月28日、カビエング北方にて雷撃で沈没	1937.3	1985.1.13
37	栗田丸	日本郵船	1943年(昭和18)10月22日、琉球那覇沖にて雷撃で沈没	1937.12	1985.9.18
38	浮島丸	大阪商船	終戦時残存船。1945年(昭和20)8月24日、舞鶴湾にて触雷で沈没	1937.3	1995.5.2
39	九州丸	原田汽船	1942年(昭和17)10月14日、ガダルカナル島北方にて空爆で沈没	1938.5	1980.5.25

	船名	所有	沈没状況	建造年	上田蔵八郎氏制作年
40	金華丸	国際汽船	1944年(昭和19)11月14日、フィリピン・マニラ港内にて空爆で沈没	1938.2	1979.8
41	鬼怒川丸	東洋海運	1942年(昭和17)11月15日、ガダルカナル島にて空爆で沈没	1938.11	1978.10.23
42	ぶらじる丸	大阪商船	1942年(昭和17)8月5日、トラック島北方にて雷撃で沈没	1939.12	1982.8.19
43	淡路山丸	三井物産	1941年(昭和16)12月12日、ルソン島バターン沖にて空爆で沈没	1939.7	
44	佐渡丸	日本郵船	1942年(昭和17)11月18日、ソロモン群島にて空爆で沈没	1939.6	
45	神國丸	神戸棧橋	1944年(昭和19)2月17日、トラック島にて空爆で沈没	1940.2	
46	報國丸①	大阪商船	1942年(昭和17)11月11日、インド洋ココス島沖にて砲撃で沈没	1940.6	1986.9.20
47	報國丸②	＊	＊	＊	
48	相模丸	日本郵船	1942年(昭和17)11月3日、比島ミンダナオ島ダバオ港にて雷撃で沈没	1940.7	
49	綾戸山丸	三井物産	1942年(昭和17)7月22日、ニューギニア島・バラバア沖にて空爆で沈没	1941.2	1978.8
50	大井川丸	東洋海運	1943年(昭和18)3月3日、ニューギニア・ラエ沖にて空爆で沈没	1941.5	1978.10.22
51	三池丸	日本郵船	1944年(昭和19)4月27日、パラオ島北方にて雷撃で沈没	1941.9	1979.8.7
52	護國丸	大阪商船	1944年(昭和19)11月17日、東支那海にて雷撃で沈没	1942.8	1986.9
53	安藝丸	日本郵船	1944年(昭和19)7月26日、リングエン北西180哩にて雷撃で沈没	1942.10	1980.10.17
54	秋津丸(あきつ丸)	日本海運	1944年(昭和19)11月15日、九州西方にて雷撃で沈没	1942.1	1978.10.28
55	摩耶山丸	三井物産	1944年(昭和19)11月17日、済洲島西方にて雷撃で沈没	1942.12	1987.1
56	阿波丸①	日本郵船	1945年(昭和20)4月1日、台湾海峡にて雷撃で沈没	1943.3	1979.8.6
57	阿波丸②	＊	＊	＊	1994.4
58	阿波丸③	＊	＊	＊	1994.4
59	高津丸①	山下汽船	1944年(昭和19)11月10日、レイテ島西岸オルモック湾にて空爆で沈没	1944.1	1984.12.1
60	高津丸②	＊	＊	＊	1988.11.18
61	久川丸	川崎汽船	1945年(昭和20)1月9日、台湾西岸安平沖にて空爆で沈没	1944.9	1980.3.21
62	日洋丸	東洋汽船	1944年(昭和19)12月7日、レイテ島北西岸インドロにて空爆で沈没	1943.6	
63	丙型・丁型海軍海防艦	日本海軍	非徴用船		2005.9
64	丙型海軍海防艦	日本海軍	非徴用船		1990.11.23
65	丁型海防艦	日本海軍	非徴用船		1990.11.26

模型出品リスト(岩重多四郎作)

陸軍船1

	船名	所有	沈没状況	建造年	岩重多四郎氏制作年
1	対馬丸	日本郵船	1944年(昭和19)8月22日、南西諸島近海にて雷撃で沈没	1914.12	2005.6
2	ありぞな丸	大阪商船	1942年(昭和17)11月14日、ガダルカナル島北方にて空爆で沈没	1920.6	2004.3
3	りすばん丸	日本郵船	1942年(昭和17)10月1日、舟山列島東方にて雷撃で沈没	1920.7	2009.11
4	ぶえのすあいれす丸	大阪商船	1943年(昭和18)11月27日、ニューアイルランド西方海上にて空爆で沈没	1929.10	2002.10
5	能登丸	日本郵船	1944年(昭和19)11月2日、オルモック湾にて空爆で沈没	1934.10	2003.8
6	太明丸	日本郵船	1943年(昭和18)3月3日、ニューギニア島ラエ沖にて空爆で沈没	1936.7	2006.11
7	九州丸	原田汽船	1942年(昭和17)10月14日、7-40N/159-46E地点にて空爆で沈没	1938	2007.5
8	鬼怒川丸	東洋海運	1942年(昭和17)11月15日、ガダルカナル島にて空爆で沈没	1938.11	2001.10
9	佐渡丸	日本郵船	1942年(昭和17)11月18日、ソロモン群島にて空爆で沈没	1939.6	2006.3
10	阿波丸	日本郵船	1945年(昭和20)4月1日、台湾海峡にて雷撃で沈没	1943.3	2008.11

陸軍船2

	船名	所有	沈没状況	建造年	登録簿記載氏名
11	ちやいな丸	川崎汽船	1944年(昭和19)9月21日、比島マニラ港にて空爆で沈没	1920.4	2005.2
12	赤城山丸	三井物産	1944年(昭和19)12月7日、レイテ島北西岸インドロ沖にて空爆で沈没	1924.7	2009.7
13	金華丸	国際汽船	1944年(昭和19)11月14日、フィリピン・マニラ港内にて空爆で沈没	1938.2	2002.6
14	淡路山丸	三井物産	1941年(昭和16)12月12日、ルソン島バターン沖にて空爆で沈没	1939.7	2004.4
15	あきつ丸	日本海運	1944年(昭和19)11月15日、九州西方にて雷撃で沈没	1942.1	2003.4
16	摩耶山丸	三井物産	1944年(昭和19)11月17日、済州島西方にて雷撃で沈没	1942.12	2001.12
17	高津丸	山下汽船	1944年(昭和19)11月10日、レイテ島西岸オルモック湾にて空爆で沈没	1944.1	2004.5
18	久川丸	川崎汽船	1945年(昭和20)1月9日、台湾西岸安平沖にて空爆で沈没	1944.9	2004.2
19	白鹿丸	辰馬汽船	1944年(昭和19)10月18日、雷撃で沈没	1917.12	2008.7
20	利根川丸	松岡汽船	1944年(昭和19)8月4日、空爆で沈没	1913.8	2009.10

海軍船1

	船名	所有	沈没状況	建造年	登録簿記載氏名
21	浅間丸	日本郵船	1944年(昭和19)11月1日、南支那海にて雷撃で沈没	1929.9	2010.5
22	氷川丸	日本郵船	終戦時残存船	1930.4	2003.12
23	高砂丸	大阪商船	終戦時残存船	1937.4	2004.8
24	浮島丸	大阪商船	終戦時残存船。1945年(昭和20)8月24日、舞鶴湾にて触雷で沈没	1937.3	2009.2
25	君川丸	川崎汽船	1944年(昭和19)10月23日、ルソン島北西沖にて雷撃で沈没	1937.7	2003.3
26	栗田丸	大阪商船	1943年(昭和18)10月22日、琉球那覇沖にて雷撃で沈没	1937.12	2003.3
27	富士川丸	東洋海運	1944年(昭和19)2月、トラック島礁湖内にて空爆で沈没	1938.7	2008.1
28	ぶらじる丸	大阪商船	1942年(昭和17)8月5日、トラック島北方にて雷撃で沈没	1939.12	2009.5
29	報国丸	大阪商船	1942年(昭和17)11月11日、インド洋ココス島沖にて砲撃で沈没	1940.6	2001.4
30	相良丸	日本郵船	1943年(昭和18)6月23日、伊豆御蔵島付近にて雷撃で沈没	1940.11	2003.3

海軍船2 民需船

	船名	所有	沈没状況	建造年	登録簿記載氏名
31	勝岡丸	拿捕船	1944年(昭和19)9月12日、東沙島西南西200哩にて雷撃で沈没	1921.6	2008.2
32	日本丸(練習帆船)	文部省	終戦時残存船	1930.3	2010.5
33	音羽山丸	三井物産	1944年(昭和19)12月22日、仏印沖にて雷撃で沈没	1936.3	2005.1
34	第三因南丸	日本水産	1944年(昭和19)2月17日、トラック島港内にて空爆で沈没	1938.9	2004.7
35	日章丸	昭和タンカー	1944年(昭和19)2月24日、ミンダナオ島沖にて雷撃で沈没	1938.11	2005.1
36	国洋丸	国洋汽船	1944年(昭和19)7月30日、スル海にて雷撃で沈没	1939.5	2007.3
37	第三青函丸	鉄道省	1945年(昭和20)7月14日、青森沖にて空爆で沈没	1939.10	2009.10
38	雄鳳丸	飯野海運	1944年(昭和19)11月26日、ボルネオ島ミン港にて雷撃で沈没	1943.10	2004.1
39	興安丸	鉄道省	終戦時残存船	1937.1	2010.5
40	浜江丸	大連汽船	1944年(昭和19)6月12日、父島二見港にて空爆で沈没	1936.9	2006.12